



スリーハート レポート

生活支援コーディネーターが
本宮の  を紹介します！



本宮市の西側に位置する岩根地区。今回紹介する下樋・梅原町内会は郡山市の熱海町と隣接している地域です。



30年前甚大な被害を出した阪神淡路大震災を教訓にして、自主防災組織をいち早く立ち上げ「自分の地域は自分たちで守る、という自助・互助の考えの基、30年が経過した現在も岩根地区の既存団体と共に地道に活動している地域です。昨年末に行った防災訓練の様子も紹介します。

岩根地区では、本宮地区防犯協会岩根支部、消防団第8分団と交通安全協会岩根分会の3団体が共同で活動していることで、要救護者の共通認識ができ、緊急時の連絡体制も構築されています。

年に一度、各団体のメンバー3人が一組になり、一軒ずつ訪問して声を掛けながら、プレゼントを届ける活動を30年間行っています。

「ひとりですらしている方の顔を見て話をすることで、その人の生活状況や身体の変化に気付くこともある」と話すのは現在岩根下樋・梅原町内会の会長で防犯協会岩根支部の顧問を務める山崎敏雄さん。



岩根地区住民による共助の取り組み

岩根下樋・梅原町内会



「変わらないかい？」と声をかけます



また12月15日には、近年各地で頻発している自然災害に備えるために、下樋・梅原集会所で防災訓練を実施し地域住民25人が参加しました。

まず、本宮市地域防災マネージャーの小齋広志さんより様々な災害に伴う被害を想定しての講話がありました。今まで発災時の避難所として使用してきたこの集会所は、大きな地震や集中豪雨の際には山崩れや土石流が心配されることや、炊き出し訓練を兼ねて炊飯器数台を一気に使用すると、集会所のブレーカーが落ちるトラブルなど、避難所としての課題が見つかりました。

山崎会長は「今回、新たな被害想定を聞いたたり、炊き出しもやってみて不備な点がはっきりした。当地区も高齢者が増えてきていることから、皆がより安心・安全に暮らすためにはどう



様々な災害に対する対策を学んだ住民のみなさん



温かい汁物とおむすびの炊出し

岩根下樋・梅原地区の支え合い活動をこれからも応援していきます。

